



信金中央金庫

SCB

SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所

ニュース&トピックス No. 30-34

(2018. 9. 26)

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048

URL <http://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp

㈱さわやかリサーチの最近の取組み

東京営業部 河野 千晶

ポイント

- さわやか信用金庫の子会社である㈱さわやかリサーチの活動については、平成29年1月18日付経営相談ミニ情報 (No. 1239) にて情報提供済であるが、最近の取組みについて当レポートで報告する。
- 同社は変化する環境を迅速かつ的確に捉え、お客様の事業経営に有益なエリア情報・マーケット情報等を提供しているほか、中小企業業種調査分析や創業調査の調査結果を同金庫に還元し、ノウハウの蓄積を図っている。
- さわやか信用金庫職員の目利き力やコンサルティング能力を向上させ、現場力を強化することを目的として、「企業視察研修」を実施している。
- 優良顧客を対象に通常のセミナーよりも専門的で付加価値の高い「プラチナセミナー」を同金庫と共催で定期的で開催している。

1. さわやかリサーチの概要

同社は、平成28年1月にさわやか信用金庫¹の100%子会社のシンクタンクとして設立された。同金庫取引先に対する情報提供・コンサルティング機能の強化や当金庫職員の目利き力向上を目的としている。役職員数は、役員4名、社員2名、同金庫からの出向者2名、パート1名、日本銀行出身の特別参与1名、リサーチフェロー1名の計11名である。なお、リサーチフェローは、信金中金OBで駒澤大学教授が務めている。

2. さわやかリサーチの業務内容

(1) 調査分析

中小企業へのヒアリングやアンケートを実施することにより、様々な業界や企業の動向を調査した上で同金庫に提言することで、同金庫の営業戦略策定をサポートしている。これまでに製造業、小売業、建設業、運輸業について調査分析を実施し、現在は不動産業について調査中である。今後、第四次産業革命における各業界の動向について調査分析する予定。「ヒト・モノ・カネ・情報」に加え、実態経済の動向と照らし合わせることで課題を発見し、解決の糸口を探っている。

また、今年度は創業先調査に注力している。リサーチフェローを招聘し、創業先4社を訪問してヒアリングを実施した。今後はデータ収集のため、直近5年間で融資を実行した先約500社に、アンケート調査を実施する。更に、創業の地区や業種別の特徴を把握して、

同金庫への提言を行う予定である。

同金庫の創業支援のレベルアップを図ることで、「さわやか信金に創業の相談をすると成功する」と言われることを目指している。

(2) 広報活動

広報誌「aile (エール)」は、未来に羽ばたく地域・中小企業にエールを贈るとの意味を込めて、平成28年6月に創刊した。平成30年6月までに計6号発行され、掲載内容は、企業視察研修報告や職員との対談、品川駅周辺の再開発やフィンテックなど多岐にわたっており、信金中金の地域・中小企業研究所職員の寄稿や、特別参与による「なるほど金融塾」も連載されている。

また、特別参与については、経済動向レポート「先週および今週のわが国主要経済指標から」をHP²に毎週掲載するとともに、経済学について分かりやすく解説した動画も配信している。



鈴木茂の経済学入門 (第2回)
「南欧の政情不安から浮き上がる我が国の財政問題」

(図表1) HPで配信している経済学入門 (動画版)

¹平成30年3月末の同金庫の概要は次のとおり。本店所在地：東京都港区、預金量：1兆4,723億円、貸出量：8,120億円、常勤役員数：1,187人、店舗数 (出張所含む)：66店舗

²さわやかリサーチHP：<http://www.sawayaka-shinkin.co.jp/research/>

Vol.06<最新号>



2018年5月 発行

(図表2) 広報誌「aile (エール)」

(3) 企業視察研修

同金庫の入庫4年目以上の総合職を対象に企業視察研修を実施している。取引先の製造現場等を視察することで、目利き力やコンサルティング能力を強化することを目的としている。平成29年1月からこれまでに4回開催しており、第1回は㈱北嶋絞製作所、㈱マテリアル、ストラパック㈱横浜工場。第2回はイービーエム㈱。第3回は日立セメント㈱、大矢化学工業㈱を視察した。

平成30年6月の第4回の企業視察研修では、日本ベローズ工業㈱の幸田工場(愛知県)を訪れ、自動車部品、航空・造船・重機産業向け製品、医療機器・レーザー装置産業向け製品やデジタル技術を活かした設備などの製造現場を視察した。

参加職員は、事前課題を与えられ、視察先や関係先について入念に事前調査するとともに、移動時間にも課題の予習・復習や視察先の周辺環境についての講義を受けるなど、丸一日学習している。視察後は、「普段聞くことができない、企業の強みや弱みなどの現場の声を知ることができて大変有意義であった。」といった声が多く、大変好評であった。今後も定期的開催する予定である。



(図表3) 日本ベローズ工業㈱幸田工場

(4) プラチナセミナー

同金庫のブランド力を向上させるため、総代等を対象に、通常のセミナーより専門的な「プラチナセミナー」を有料で開催している。参加を少人数に絞り、講演後の情報交換会で講師と親しく意見交換する場を提供するのが特徴である。第1回は、平成29年9月に日興リサーチセンター(株)の理事長である山口廣秀氏(元日銀副総裁)を招いて、「内外経済の現状と展望」をテーマに開催した。平成30年2月には、第1回参加者を対象に日本銀行本店視察勉強会を実施した。第2回は、平成30年7月に建設業界の経営者を対象に、大手建設会社役員を講師に招いて「建設業のESG(環境・社会・ガバナンス)～SDGs(持続可能な開発目標)に向けた取り組み～」をテーマに開催した。



(図表2) 第1回プラチナセミナー

3. 今後の取組みについて

同金庫が抱える東京都心部を中心とする営業エリアは、人口・企業数とも増加基調にあり、先端技術や情報が集中し、再開発事業も複数進行する等、今後も成長が期待できるエリアである。数ある金融機関の中で優位性を打ち出すためにも、同金庫はグループ丸となってマーケティングとソリューションの強化に取り組む必要があると考えている。そのため、今後は同社と同金庫がこれまで以上に連携して活動する機会を増やしていく所存である。

具体的には、同社が実施するアンケート調査から得られるエリア動向や顧客動向を同金庫の営業戦略に活用する、同社と同金庫の営業店が連携して優良顧客獲得のための勉強会や情報交換会を開催する等のマーケティング施策や、他の信金シンクタンクや大学等外部機関との連携強化、個別取引先の課題解決支援を同社と同金庫コンサルティングセンターが一体となって対応する等、取引先に提供可能なソリューション強化に取り組んでいく考えである。

以上